

# 横断歩道の安全支援

## 名大、キクテック、オリコンサル LEDで注意喚起

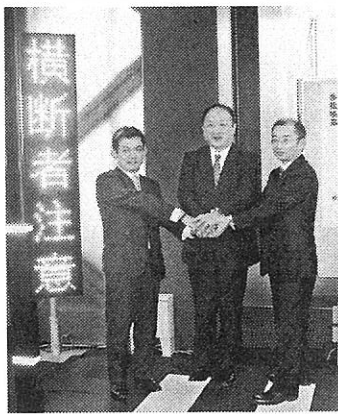
名古屋大学院の中村英樹教授とキクテック(名古屋市長、新美政衛社長)、オリエンタルコンサルは、歩行者の安全な道路横断を支援するシステムを共同開発し

た。横断歩道にLED発光装置を設置。ドライバーが歩行者に気付く時間を早めて事故を防止する。高知県須崎市の国道交差点に導入された。同システムは、横断歩

道の手前で人感センサーが歩行者を感知し、路面に設置された発光装置と、点滅式のLED表示板でドライバーへ知らせる仕組み。発光装置と表示板は、歩行者が横断している時だけ機能するため、通常の看板に比べ、

ドライバーへの注意喚起効果が高いのが特徴。「横断者感知式注意喚起システム」として特許を出願している。

中村教授によると、交通事故の死亡者のうち、08年以降は「歩行中」が約7割が高齢者。その約7割が高齢者。ドライバーが歩行者に気付くのが遅れたり、横断歩道での歩行者優先が守られていなかったりするのが要因という。こうし



システムを開発した(左から)新美社長、中村教授、野崎社長

た課題を解決するため、同システムの開発を進めてきた。

11年度に長野県飯田市と高知市、12、13年度に高知県須崎市でシステムの有効性を確認する実験を重ねた。飯田市では

ワンドアバウト(円形交差点)を使い、ドライバーの視認距離が伸びることを確認。高知市と須崎市では、信号がありながら左・右折事故が多発していた交差点での効果を実証した。

5日に名古屋市千種区

の名古屋大で中村教授、新美キクテック社長、野崎秀則オリエンタルコンサル社長がシステムを発表し、「高齢化社会を迎え、歩行中の事故防止が一層重要になる」と普及に期待を込めた。